

KIRIN

キリン株式会社

長野県丸子修学館高等学校



長野県丸子修学館高等学校のみなさん
研修後、楠本博士と藤原シニアアドバイザー(キリン)と記念撮影

**メルシャンのブドウ畑は草原でもあった！
ブドウの栽培を通して草原の生物多様性保全に貢献！**

キリングroupのメルシャン自社管理ブドウ畑を長野県修学館高等学校のみなさんが訪問し、草原の重要性と生物多様性について学びました。

日本ワインのブドウ畑 椀子(マリコ)ヴィンヤード

キリンホールディングス株式会社は日本有数の飲料メーカーであり、グループの一員であるメルシャンはワインを製造しています。そのワインの中でも国産ブドウだけで作ったワインは日本ワインと呼ばれ、人気が急上昇しています。今回はメルシャンの日本ワイン用自社管理ブドウ畑 椀子ヴィンヤード(長野県上田市)を訪問しました。

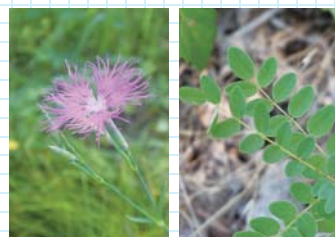
椀子ヴィンヤードの歴史と草原

20ヘクタールの広さを誇る椀子ヴィンヤードですが、もともとは養蚕のための桑畑や薬用にんじん畑でした。しかし、農家の高齢化に伴い、畑が遊休荒廃地となり農家たちが困っていたところ、メルシャンが求めていた気象条件の土地だと分かり、2003年に元の地形を残すように配慮しながら今のブドウ畑へ転換しました。メルシャンはブドウ栽培では環境負荷の少ない肥料の活用や減農薬栽培に努めてきました。

2013年にはメルシャンが所属するキリングroupで長期環境ビジョンを策定し、その中で「2050年までに、生物資源を持続可能な形で使用することを目指す」ことを1つのビジョンに掲げました。その具体的な取り組みの一つとして、2014年から椀子ヴィンヤードに国立研究開発法人 農研機構・農業環境変動研究センターの楠本良延博士を初めとする専門家を招いて生態系調査を始めました。調査の結果、垣根栽培のブドウ畑が栽培のために下草を生やし、年に数回草刈りを行うことで、ブドウ畑全体が「良質で広大な草原」として機能していることがわかりました。100年前には日本の国土の3割はあった草原ですが、現在は1%以下にまで減少しており、草原をすみかとする動植物は絶滅の危機に瀕しています。椀子ヴィンヤードのブドウ畑が草原として機能することで、多様な昆虫168種や植物258種が生息できる環境となりました。



ブドウ畑の下には「良質で広大な草原」が広がっています



カワラナデシコ

クララ

草原と生物多様性

さらに、生態系調査では希少種も多く見つっています。植物では国レベルの希少種であるメハジキ、キスゲ、スズサイコが生息しています。今回の研修では、希少種のスズサイコや良質な草原の代表種と言われる「カワラナデシコ」が綺麗なピンク色で咲いているのが確認できました。また、長野県と阿蘇でしか生息が確認できていない絶滅危惧種であるチョウ「オオルリシジミ」の唯一の食草であるクララも生息しています。残念ながらも椀子ヴィンヤードではオオルリシジミを確認できていませんが、今後クララの保全が進むことで大いに期待ができます。今回の研修では見つけれられませんが、調査では絶滅危惧種のチョウ「ウラギンスジヒョウモン」なども見つっています。



研修風景

希少種の植生再生活動

希少種が多く見つかったことを受け、2016年から従業員参加で植生再生活動を開始しました。方法は希少種の植え替えではなく、希少種や在来種が植わっていた場所の枯れ草を刈り取って集め、再生場所に蒔くだけです。こうすることで枯れ草の中に含まれる種が翌年芽を出します。2017年には在来種の定着を確認しました。今後は、芽が出るまでに時間がかかる希少種の定着や昆虫が移動する際に利用する緑地帯として機能することにも期待が高まっています。

長野県丸子修学館高等学校 高校生環境宣言

研修を通して学んだことを今後に対する宣言として発表してもらいました。

自然に興味を持ち、自然を大切にする

宣言の理由

研修を通して、草原を広げたり、希少生物を保護する大切さを学びました。今の若者は自然に興味がないので、まずは一人ひとりが自然に興味を持つことが大切だと思い、この宣言にしました。

感想



小山 月也さん(3年)

最近草原がとても少ないという話を聞き、(メルシャンが)増やすような努力をたくさんしているのがわかり、とてもよかったと思います。希少価値のある植物が見れてよかったです。



磯 龍紀さん(3年)

今日の体験を通してクララなどの希少な生物などをよく知れたので、これからはその知識を活かして自然に興味を持っていきたいなと思います。



上原 正代さん(3年)

今回の生態系調査を通して、枯れ草を刈り取って集めて撒くことによってまた植物が再生できることを初めて知ったので、今後そういう活動があるなら参加してみたいと思いました。



齋藤 秀脩さん(3年)

普段の生活では体験できない、貴重な体験ができてよかったです。



西澤 友弘さん(3年)

全国で1%しかない草原を地元の丸子で実際に見れてよかったです。



山辺 千笑さん(3年)

今日はクララという生物を知れたことが一番の嬉しいことで、もう少し勉強すればもっと理解が深まったのかなと思いました。でも楽しく学べたのでよかったです。